

フィリピンのアフリカ豚コレラ発生確定に応じ、国境検疫強化措置

<http://www.mafra.go.kr/mafra/293/subview.do?enc=Zm5jdDF8QEB8JTJGYmJzJTJGbwFmcmEIMkY2OCUyRjMyMTI5NyUyRmFydGNsVmllidy5kbyUzRmJic0NsU2VxJTNEJTI2cmdzRW5kZGVtdHIIM0QIMjZiYnNPcGVuV3JkU2VxJTNEJTI2cGFzc3dvcmQIM0QIMjZzcmNoQ29sdW1uJTNEJTI2cGFnZSUzRDEIMjZyZ3NCZ25kZVN0ciUzRCUyNnJvdjUzRDEwJTI2aXNWaWV3TWluZSUzRGZhbHNIJTI2c3JjaFdyZCUzRCUyNg%3D%3D>

(以下、機械翻訳などによる仮訳)

□農林畜産食品部(長官キム・ヒョンス、以下農食品部)は、2019年9月9日、フィリピン農業省がブラカン州とリサール州でアフリカの豚コレラ(ASF)が発生したと発表したことにより、8月から実施しているフィリピンでのASF発生疑いに伴う国境検疫措置を更に強化すると発表した。

*フィリピンは8月中旬頃ルソン島の2州(ブラカン州、リサール州)でASFが疑われる豚が発見され、発生疑い農場とその農場から半径1km以内の豚を殺処分するなどの防疫措置を講じたことを発表している。

○農食品部は、フィリピンでのASF発生疑いの情報を得た後、8月19日からフィリピンから仁川・金海・大邱空港へ渡航する旅行者の手荷物検査を強化するため、検疫探知犬の配置を拡大し(4便/週から6便/週)、X線検査、携帯品に対する税関合同の一斉検査を47便追加して実施するなど、国境検疫を強化している。

*フィリピンから生きた豚、豚肉、豚肉加工品を韓国へ輸入することはできない。

□農食品部は、中国(2018年8月3日)に続き、モンゴル・ベトナム・カンボジアなどでもASFが発生したことを受け、2019年3月16日から検疫を強化している。また、ASFはラオス・ミャンマー・フィリピンなどアジア全域に拡大しており、旅行者が畜産物を持ち込まないよう広報活動をするとともに、空港における携帯品検査を強化している。

○併せて、ASF発生国から入国する旅行者が畜産物を持ち込まないよう、海外で外国人にビザを発給する際のリーフレット添付やローカル空港の電光掲示板を活用した検疫案内など、対策を進めている。

□農食品部は、海外旅行をする畜産関係者に対し、ASF発生国の訪問を自制し、やむを得ず訪問する場合は畜産施設を訪問しないようにして、海外で畜産物を購入・携帯して韓国へ入国しないことを要請している。

○フィリピンでASFが発生したことにより、違法に畜産物を持ち込んだ際の罰則金が、1回の違反で500万ウォン(約45万円)以上1000万ウォン(約90万円)以下の範囲で科されることとなる。

*罰則金適用事例:18件(韓国人4件、中国人6件、ウズベキスタン人3件、カンボジア人2件、タイ人1件、モンゴル人1件、フィリピン人1件)